

5月25日

司祭教会博士ビード

Beda Venerabilis

(673頃～735)

～英国歴史記述の父祖～



「ヴェネラビリス」

ニュルンベルク年代記より

イギリスの神学者、聖書学者であり、歴史家でもある。

彼はノーサンブリアのアングロ・サクソン王国に生まれる。信仰深いビードの両親は、彼が7才のときにウェアマスの聖ペテロ・聖パウロ合同修道院(ベネディクト会)に入れる。彼の才能はベネディクト会士らの教育によって見事に発掘され、古代のキリスト教から異教の著作集にいたるまで、深い知識を吸収していく。

そして681年ごろ、ジャローの修道院に移り、19歳で助祭となる。さらに11年間哲学と神学を学んだのち、司祭に叙階され、なおも研究を続けて神学博士の学位を得る。

彼は生涯にわたり、祈りと研究・教授活動に専念し、尊者(Venerabilis)の称号をもつ。しかしその中でもほかの修道士同様、農業や酪農、台所仕事にいたるまで、骨惜しみせず働いた。また初代教父の書に註釈をつけていたり、ほとんどすべての聖書の注解書を書いたりもした。さらに物理・数学・気象学・天文・植物・教会史・詩学・聖人電気学など幅広い知識を用いて、多くの黙想書や神学書、歴史書をあらわしていった。

彼の博学ぶりはイギリス全土に広まっていき、司教のみならず国王にいたるまで、彼の意見を聞き

にくるほどだった。731年に書かれた「イギリス教会史」は現在も「ベダ英国国民教会史」として日本語翻訳を読むことができる。(講談社学術文庫、高橋 博訳)

しかし、絶えまない研究活動などによって彼の体力は消耗し、胃の障害や足のむくみ、呼吸困難に早くから悩まされていた。しかし神学生に対する講義をやめることはなかった。

そして735年5月26日、「栄光は、父と子と聖霊に」と唱えながら、彼は63年の生涯を閉じていった。生前の彼は「修道生活の実務以外に、私の楽しみは学ぶこと、教えること、書くことである」と言っていたという。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、司祭教会博士ビードの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣傳伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン